

これからのための

美術部門 教育普及の

これまで。





● 館内普及事業 H18 - H28

当館で開催される美術部門の企画展、テーマ展示、コレクション展などで、展覧会を企画した学芸員や作家本人が行うギャラリートークは、鑑賞者の作品理解への手助けとなる。それ以外にも、鑑賞者と作品との距離を縮めるために、特に子どもたちへのアプローチとして、ワークシートや鑑賞ガイドの配布、展覧会関連ワークショップ、観覧者参加型の展示などを行ってきた。ここでは、平成18年度から約10年間にわたり展示室で行った鑑賞のための様々な取り組みを振り返る。

* 展覧会と関わるもののみを記載した。この他に、「毎週土曜はアートの日!」として、アートと出会うさまざまな企画を土曜日に集約し、年間約50回開催している。

1	2	3	4	5
展示作品に題名をつけて鑑賞する	ゲームをしながら鑑賞する	鑑賞者のメッセージをとおして鑑賞する	総合博物館の良さを生かして鑑賞する	絵を見た印象を詩にしながら鑑賞する
6	7	8	9	10
ワークシートのクイズを解きながら鑑賞する	季節の色を探しながら鑑賞する	絵になりきって鑑賞する	学芸員の解説を聞きながら鑑賞する	対話しながら鑑賞する
11	12	13	14	15
さまざまな線に注目しながら鑑賞する	描かれたものを探しながら鑑賞する	ワークシートを使いながら鑑賞する	伝統や文化に触れながら鑑賞する	作家とともに展示作業しながら鑑賞する
16	17	18	19	20
模写しながら鑑賞する (Vol.1)	展覧会を企画することで鑑賞する	画材の特徴を実感しながら鑑賞する	学芸員になったつもりで鑑賞する	模写しながら鑑賞する (Vol.2)
21	22	23	24	25
作った誰かに手紙を書きながら鑑賞する	対話しながら鑑賞する	同じ技法で制作体験することで鑑賞する	デフォルメや省略に着目しながら鑑賞する	作品に触ることで鑑賞する

1 一展示作品に題名をつけて鑑賞する一

平成 18 年度 県立博物館 & 学校連携企画美術展 (中国五県造形研究大会関連) 「W.B.K. タイトル・マッチ」

会期：2006 年 9 月 2 日 (土) ~ 11 月 4 日 (月)
 鑑賞授業開催日時：2006 年 10 月 20 日 (金) 9:10 ~ 10:10
 会場：鳥取県立博物館 1 階美術常設展示室
 対象：西中学校生徒 28 名 大会参加教員等 30 名 計 58 名
 ファシリテーター：鳥取市立西中学校 教諭 千代西尾 真理
 主催：中国五県造形教育研究大会実行委員会



鑑賞授業の様子

学芸員と学校教員が共同で企画した普及的展覧会を開催した。本展の特徴は、通常であれば展示作品のそばに必ず置かれるキャプション (作家・作品名を記載したプレート) を設置せず、鑑賞者ひとりひとりが作品それ自体とじかに対面し、感じたことをもとに自由に「タイトル」をつけそれを会場内で掲示するという点だった。さらに、他の鑑賞者がつけたタイトルを知ることによって、自分とは異なる見方でもう一度作品に向かい、別の視点での鑑賞を促すという面もあった。

展覧会は、このねらいを格闘技になぞらえたもので、鑑賞者個々の主体性を重視することから W.B.K 「わたしの びじゅつ かんしょう (Watashino Bijutsu Kansho)」、作品と対面 (対決) し作品の印象に合致 (マッチ) したタイトルをつけ、他者がつけたタイトルと交流 (対戦) させることから「タイトルマッチ」とした。

W.B.K. タイトルマッチ ワークシート

姓 名 氏 名

●個人タイトル (自分の好きなタイトルをつけよう)

作品名	自分のタイトル	他のタイトル

●共同タイトル (自分と他の鑑賞者が一緒に決めたタイトルをつけよう)

作品名	自分のタイトル	他のタイトル

メモ

ワークシート

- 主な出品作品
- 有田 巧 《公園前》2000 年
 - 増田英一 《人物》1922 年
 - 福留章太 《ヒメボゴウラ貝による》1969 年
 - 笹鹿 彪 《風車にいどむドンキホーテ》
 - 藤原晴彦 《DAY DREAM' 91-7(Blue)》1991 年

2ーゲームをしながら鑑賞するー

平成19年度夏休み子ども向け企画「Go! Go! アート探検隊」

会期：2007年7月10日（火）～8月26日（日）

会場：鳥取県立博物館 2階近代美術展示室

対象：小学生～一般

夏休み企画として主に小学生とその保護者を対象に、ゲームを通して絵画を身近に感じてもらう普及的展覧会を開催した。

本展では、主に明治から現代に至る県内の著名作家を取り上げて作品を紹介するとともに、クイズやパズルなど体験活動に参加しながら自然に画面構成や配色、作品に描かれた情景に迫っていきけるよう構成した。

特に前田寛治作《棟梁の家族》の大型ジグソーパズルを新たに作成したこともあり、昨年に比べて体験コーナーの規模を拡大し、アートに触れながら親子でゆっくりとした時間が過ごせる場を提供することができた。

主な 出品 作品	前田 寛治 《棟梁の家族》1928年
	伊谷 賢蔵 《遠雷習作》1939年
	濱田 台兒 《花容》1976年
	中井 金三 《浴衣の女》不詳
	尾崎梯之助 《赤煉瓦と車輪②》

Mission8: この場所をさがせ!



Go!Go!アート探検隊「色をさがせ!」ぬりえシート



クイズシート



アートパズル

3ー鑑賞者のメッセージをとおして鑑賞するー

平成20年度夏休み子ども向け企画「手紙ではじまる展覧会」

会期：2008年7月27日（土）～8月27日（水）

会場：鳥取県立博物館 2階近代美術展示室

対象：小学生～一般

本展では、主に明治から現代までの県内作家の作品を中心に、作品同士の“つながり”をテーマにして展示した。また鑑賞者が後に来る鑑賞者へ手紙（メッセージ）を書き残すことで意思が“つながっていく”という、今までに例のない鑑賞スタイルも提供した。

会場に入り、自分宛の手紙を読むことから鑑賞がスタートし、手紙に書かれたメッセージをもとに鑑賞した後は、受け取ったのと同様に今度は自分がメッセージを残す。この一連の行為を通して、異なる時間に来場した人同士が互いに鑑賞の視点を共有し、より幅広い作品の見方ができるようになることをねらった。

主な 出品 作品	野崎信次郎 《暗い曲線(D)》1971年
	濱田 台兒 《翔鶴》1995年
	藤原 晴彦 《DAY DREAM(Z)》1991年



手紙ではじまる展覧会 鑑賞レポート

月 日 ()

■鑑賞者になった作品を1つ選ぼう。

作品名・作者	作品の中のポイントに鑑賞者特化したか?
作品名 ()	
作者 ()	

■鑑賞者のメッセージで感想に込めたものを添えて。

鑑賞したメッセージ	このメッセージを他の人の目に
()	

■鑑賞者の感想・感想

②鑑賞者体験施設AD02020820081101

ワークシート



4 総合博物館の良さを活かして鑑賞するー

平成 21 年度夏休み子ども向け企画 「対決！ ホンモノ 対 アート」

会期：2009 年 7 月 25 日（土）～9 月 2 日（水）

会場：鳥取県立博物館 2 階近代美術展示室

対象：小学生～一般

本展では、主に県内ゆかりの作家が描いた作品を中心に、描かれた作品とモチーフ（描く対象）となった動物標本を同時に展示した。作品を制作するアーティストたちは対象物をどのように捉え、作品へと再構成していったのだろうか。

会場には、動物標本を取り囲む形で美術作品が展示されており、鑑賞者は作品を鑑賞しながら、まず描かれている動物と同じ標本を探す。次に、両者の細部に注目して描き方の工夫を見つけ出す。そしてさらに描いた作者がどのような人物であるかを想像してみる。この一連の流れの中でアーティスト像が徐々に浮かび上がり、彼らの見方や考え方を追体験していくことができた。

主な
出品
作品

森田光達《遊鯉》1969 年

伊谷賢蔵《兎》1951 年頃

島田元旦《竹鶏図》制作年不詳

國頭繁次郎《記念碑的鳥》1968 年

土方稲嶺《松音呼画》制作年不詳



5 絵を見た印象を詩にしながら鑑賞するー

平成 22 年度夏休み子ども向け企画 「展覧会で見るアートカルタ」

会期：2010 年 7 月 24 日（土）～8 月 29 日（日）

会場：鳥取県立博物館 2 階近代美術展示室

対象：小学生～一般

本展では、鳥取県立博物館が作成した学校教材「アートカルタ」に使用されている作品を展示した。「アートカルタ」は当館所蔵作品のうち 50 点をカルタの絵札にした教材で、ゲームを通して図画工作や美術など、様々な鑑賞教育に利用されている。平成 18 年度より学校を対象に貸出を開始し子どもたちに親しまれてきた。また公民館等で行っている「鳥取の美術入門」の事業では、読み札づくりをとおして子どもから大人まで広く紹介してきた。展覧会では、カルタに使用された鳥取県立博物館を代表する作品を鑑賞するとともに、実際のアートカルタで遊ぶことも出来るようにした。さらに、読み札づくりができるコーナーも常時設置し、展覧会に参加・体験しながら鑑賞することをねらった。

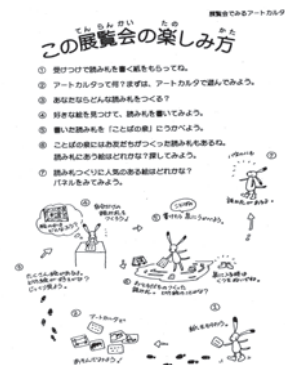
主な
出品
作品

前田寛治《花と子供等》1921 年

有田 巧《風歌い》1991 年

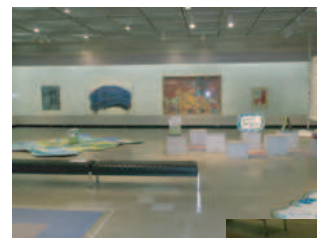
前田直衛《京伏見》1982 年

国領経郎《社を映す溜水》1993 年



こま犬の怒り 尾崎佛之助 1982

こま犬も
月を見ると
うっとりします



会場風景



「ことばの泉」と浮かべられた読み札

6 ワークシートのクイズを解きながら鑑賞するー

平成 22 年度 企画展 「生誕 100 年 彫刻家 辻 晋堂展」

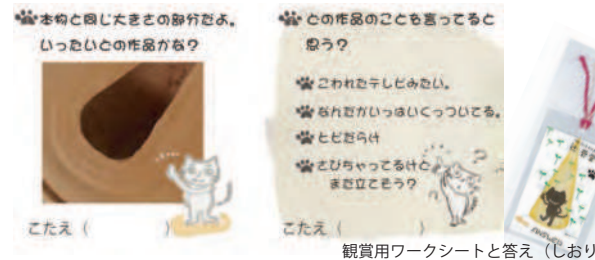
会期：2010 年 11 月 27 日（土）ー2011 年 1 月 10 日（月）

会場：鳥取県立博物館 2 階第 1、第 2、第 3 特別常設展示室

対象：小学生、中学生、一般

彫刻家 辻晋堂の生誕 100 年の節目となる 2010 年に開催された企画展で小学生用、中学生・高校生用の解説や言葉遣いの異なる 2 種類のワークシートを準備し、クイズを解きながら楽しく鑑賞出来るようにした。

辻晋堂は鳥取県出身の彫刻家で、1910 年に現在の伯耆町に生まれた。会場には、本物そっくりにつくられた木の彫刻や鉄でつくられた不思議な形の彫刻、粘土でつくられた小さな部屋のような彫刻など、辻晋堂が 24 歳から 70 歳頃までに制作した多様な作品を展示。ワークシートを持って、会場を巡りクイズを解き、ワークシート記入後は会場の受付に声をかけ、回答をもらうようにした。



観賞用ワークシートと答え（しおり）

主な出品作品
辻晋堂《ザムザ氏の散歩》1954 年
辻晋堂《沈黙》1957 年
辻晋堂《馬と人》1958 年
辻晋堂《雲の記憶》1959 年

7 一季節の色をさがしながら鑑賞するー

平成 23 年度 夏休み子ども向け企画 「めぐるぐるぐる - さがしてみよう！ 四季のいろ -」

会期：2011 年 7 月 23 日（土）～ 8 月 28 日（日）

会場：鳥取県立博物館 2 階近代美術展示室

対象：小学生～一般

本展では、当館所蔵作品のうち移り変わる季節の美しさをテーマとした、日本画、洋画、水彩画、版画作品を展示した。季節の感覚が私たちの身の回りから薄れはじめている今、四季の変化に恵まれた日本の風土の中で季節の移ろいに目をとめ、心を動かし、制作した作家たちの感性にふれながら、その鋭敏な美意識の世界を通じて、もう一度四季の美しさやその色彩を見つめ直すことをねらいとしたもの。四季+季節を考えるコーナーの 5 つのテーマに分けて展示した。会場の中央には、作品の中に見つけた季節の色の折り紙で風船を折り、作品ごとにつり下げていくブースを作った。

主な出品作品
木原義明《早春》1943 年
中島菜刀《夕立》
尾崎悌之助《寒村雪景》
田中正之《雪の袋川》1935 年頃



作品の中に季節の色を見つけ、同色の折り紙で風船を作り吊る。

8 絵になりきって鑑賞するー

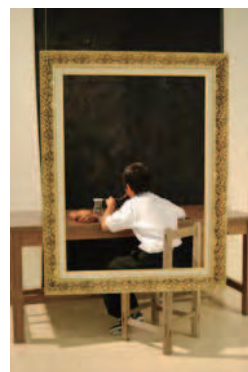
平成 24 年度夏休み子ども向け企画 「なりきりアート展 - 演じてみよう！額縁の中の物語」

会期：2012 年 7 月 7 日（土）～9 月 2 日（日）

会場：鳥取県立博物館 2 階近代美術展示室

対象：小学生～一般

本展は、展示された当館所蔵の作品の中に描かれた人物や風景等のモチーフを演じ、絵の中に入り込むことから作品鑑賞をはじめ。日本画、洋画などの中から 10 点余りを展示し、それらの作品に描かれたモデルや描かれたものに「なりきってみる」ことで、モデルのポーズやそこに込められた作者の意図について新たな発見がある。会場には、衣装や小道具を用意した。それらを選んで配置したり、身につけたりした後、会場に設置された額縁の中へ入る。デジタルカメラや携帯のカメラでの撮影も可能とした。



前田寛治《ものを喰う男》



左：教員研修 上：八東中学校第 1 学年

主な
出品
作品

笹鹿 彪《プロメテ》
前田寛治《ものを喰う男》
國領経郎《遙眺》



9 学芸員の解説を聞きながら鑑賞するー

平成 24 年度 企画展 「須田国太郎展ー没後 50 年に顧みるー」

会期：2012 年 10 月 20 日（土）～11 月 25 日（日）

会場：鳥取県立博物館 2 階 第 1 特別展示室 第 2 特別展示室

対象：一般

日本近代洋画の巨匠の一人であり、独立美術協会で活躍した須田国太郎（1891 年～1961 年）の画業を紹介する回顧展。会場には、鳥取県岩美町田後を描いた 3 枚の油彩画や山陰各地を描いた素描を含めた初期から晩年までの主要作品 130 点あまりを展示し、その偉業の概要を紹介した。

鑑賞ガイドを準備する、須田の代表作《犬》に描かれた黒い犬のフィギアをつくるなど、来館者の興味をひき、鑑賞の補助となるような環境をつくった。



須田国太郎展 須田国太郎の犬
須田国太郎 犬（油）1950 年（日）
油彩 100.0 × 100.0 cm 須田国太郎 蔵
© 2012 Kunikida Doppo. All rights reserved. Photo: T. Kato / Museum of Modern Art, Tokyo



主な
出品
作品

須田国太郎《漁村田後》1936 年
須田国太郎《黄豹》1944 年
須田国太郎《犬》1950 年
須田国太郎《鶴》1952 年



鳥取市立久松小学校 題 5 学年

左：須田国太郎《犬》から作成したフィギアを手に解説する 右：《黄豹》1944 年の前で自然に模写を始める子どもたち



10 一対話をしながら鑑賞する一

平成 24 年度 鳥取の表現者 File.04 「フナイタケヒコー 絵画の光景」

会期：2013 年 2 月 16 日（土）～ 3 月 24 日（日）

鑑賞授業開催日：2013 年 2 月 22 日（金）

開催場所：鳥取県立博物館 第 2 特別展示室

参加対象：鳥取市立醇風小学校 第 1 学年 42 名

ファシリテーター：醇風小学校 第 1 学年担任 2 名

講師：美術作家 フナイタケヒコ氏

郷土にゆかりのある活躍めざましい作家たちを取り上げる連続企画「シリーズ 鳥取の表現者」の 4 回目となる本展では、鳥取在住の画家、フナイタケヒコを紹介。1978 年頃から今日にいたる絵画の展開を、主要な 6 つのシリーズ、約 250 点の作品で回顧した。

来館して鑑賞授業を行った子どもたちは、いくつかの作品の前でクラスごとに鑑賞し、絵の中に見つけたものや感じたことを伝え合った。その後アーティストと出会い、画材や技法、作品制作に込めた気持ちなどを話聞きいた。



みつけたものや感じたことをことばで伝える



アーティストと出会い制作意図や素材について聞く

主な出品作品
フナイタケヒコ 《Crystallization45°》 1978 年
フナイタケヒコ 《遺景 Setup-2》 1997 年
フナイタケヒコ 《明滅する記憶》 1998 年
フナイタケヒコ 《Drifting Sight 系列の新作》 2011 年

11 一絵の中のさまざまな線に注目しながら鑑賞する一

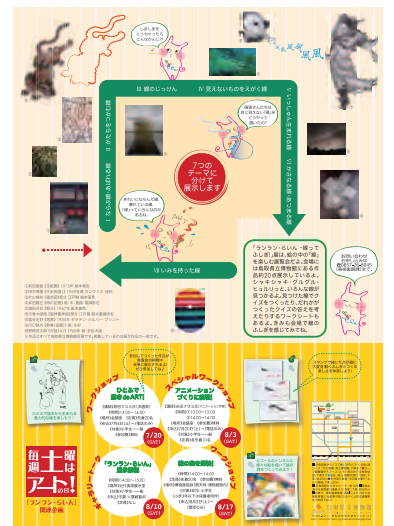
平成 25 年度夏休み子ども向け企画 「ランラン・らいん - 線ってふしぎ！」

会期：2013 年 7 月 20 日（土）～ 8 月 25 日（日）

会場：鳥取県立博物館 2 階近代美術展示室

対象：小学生～一般

本展では、作品の中にある「線」に着目し、その美しさや面白さを味わうことをねらいとした。古来より人間は「線」を刻むことでコミュニケーションをしてきた。刻まれた線は文字となり、あるいは絵画や模様となって私たちの生活の中で様々な表情を見せている。会場には「線」のある絵画や彫刻等を展示した。また、実験的に作品の中の「線」を変化させる、なくしてみるといった「線の実験」をはじめ、輪郭線、ボリュームを表現するための線、風や感情など見えないものを表現する線、強弱をあらわす線など、「線」を再発見する仕掛けをいくつかのコーナーとして準備した。



主な出品作品
川口軌外 《群像》
浜田台兒 《野分》
前田直衛 《京祇園》
野崎信次郎 《Memory(84-A)》 1984 年



会場風景

12 一描かれたものを探しながら鑑賞する一

平成 25 年度企画展 「没後 50 年 菅楯彦展 ー浪速の粋 雅人のこころ」

会期：2014 年 2 月 22 日（土）～4 月 6 日（日）

ワークショップ開催日時：2014 年 3 月 1 日（土）

会場：鳥取県立博物館 2 階第 1・2 特別展示室 近代美術展示室

対象：一般

本展では、大阪で活躍した鳥取出身の日本画家・菅楯彦（すが・たてひこ／1878～1963）の画業を紹介した。秩父宮家への献上品として考案された龍村平蔵による『天地逆旅』の大構想図をはじめ、屏風や掛軸など初期から晩年までの作品 200 点あまりにより、その偉業の全貌を知ることが出来た。ワークショップは、絵にスポットライトを宛てたように見える紙製の懐中電灯で、透明なシートに印刷された菅の作品を見られる鑑賞グッズを作成するもの。鑑賞グッズを使うことで、展示作品をじっくりと見るように促すねらいがあった。



上・下：ワークショップ「よ〜く見てみよう！楯彦はんの絵。」

主な
出品
作品

菅楯彦《龍頭錦首図屏風》
菅楯彦《春宵宣行》1926 年
菅楯彦《舞楽（萬歳衆）》
菅楯彦《舞楽青海波》1917 年



13 ーワークシートを使いながら鑑賞するー

平成 26 年度企画展 フィレンツェピッティ宮近代美術コレクション「トスカーナと近代絵画」

会期：2014 年 4 月 15 日（土）～5 月 27 日（火）

会場：鳥取県立博物館 2 階第 1、第 2 特別展示室

対象：一般

本展では、ピッティ宮の 3 階に位置し、主にフィレンツェを中心としたトスカーナにおける 18 世紀から 20 世紀までの美術を収蔵している近代美術館「Galleria d' Arte Moderna」のコレクションを紹介した。会場では、来館した児童・生徒の人数に応じてグループに分け、各グループごとに学芸員がファシリテーターとなって対話による鑑賞を行った。その後ワークシートを配布して自由に鑑賞する。ワークシートの内容は、鑑賞の申込みがあった学校の担当教員から、鑑賞の目的や要望を聞き取った後、学校ごとに、滞在時間、館内での活動、発達段階を考慮して作成している。ワークシートとともにバインダー、筆記用具を準備した。



作品を前にした対話による鑑賞

主な
出品
作品

《サンタ・トリニタ橋付近のアルノ川》アントニオ・フォンタネージ
《眠る少女》フェデリコ・サンドメネギ
《形而上学的作品》ジョルジョ・デ・キリコ



ワークシート

14 一絵を通して伝統や文化に触れる一

平成 26 年度夏休み子ども向け企画 「あそびにおいでよ！モ・シリのともだち」

会期：2014 年 7 月 19 日（土）～8 月 31 日（日）

会場：鳥取県立博物館 2 階近代美術展示室

対象：小学生～一般

本展は、当館所蔵の岡村吉右衛門（おかむら・きちえもん（1916 年～2002 年）の型染め版画に描かれたさまざまな生きものたちに出会う展覧会として開催した。岡村独特の「型染め版画」として代表的な「蝦夷絵」シリーズには、北海道のアイヌ民族の伝統的な文化や神話をモチーフに鳥や獣、魚、鯨、樹木、草花などの動植物が、どこかユーモラスで愛らしく描かれている。展覧会名の「モ・シリ」とは、アイヌ語で“穏やかな国”の意。

主な
出品
作品
《梟》紙・型染め版画
《雪兎》紙・型染め版画
《白鯨》紙・型染め版画

銀のしずくふるふるまわりに
金のしずくふるふるまわりに

アイヌの世界では、神であるわたしたちは地上を歩いて、ときどき人間のところへやってくるよ。シマフクロウのわたしも、「コタン・コル・カムイ（=村の守り神）」としてみんなをまもっているんだ。夜になると、この歌を歌いながら飛びまわって、家の中を神さまの宝物でいっぱいにするんだよ。
ここにある「しずく」も人間にとっても大切な宝物。
この宝物でモシリに泉や川をつくっておくれ。

鳥取県立博物館「アイヌ神話」より



会場風景



久松小学校「わくわく久松」鑑賞＆ワークショップ

15 一作家とともに展示作業をしながら展示を体感する一

平成 26 年度胸キュン珊瑚展関連企画 「瀧澤 鳥取県立博物館のためのインスタレーションとワークショップ」

館内普及事業

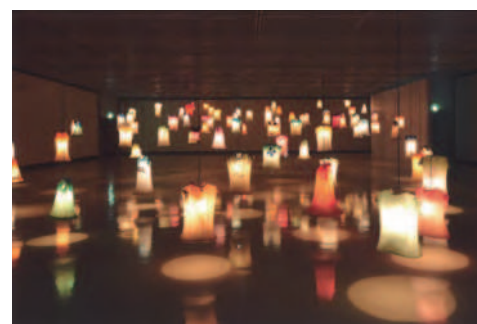
開催日時：2014 年 7 月 19 日（土）～8 月 31 日（日）

ワークショップ開催日時：2014 年 7 月 26 日（土）、27 日（日）

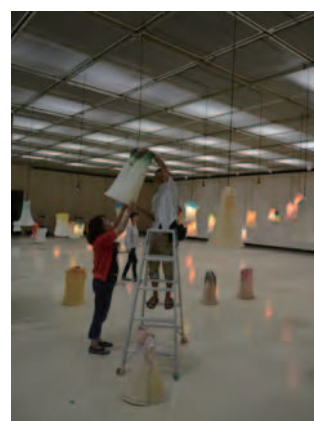
会場：鳥取県立博物館 2 階第 2 特別展示室

対象：小学生～一般

本展は、同時期に開催中の自然部門企画展「胸キュン☆サンゴ展」（第 1 展示室）に隣接した会場を使い、深海のイメージを感覚的に楽しむことの出来る空間とした。現代美術作家の瀧澤氏が近年展開しているランプシェードを使ったインスタレーションは、暗い空間に高低差のある多数の光を構成するもので、闇と光で作られる非日常的な空間はまさに深海のイメージだった。来館者は展示作業の中で、作家の人柄や思い、材料や展示の手法に触れ、作品を深く味わう機会を得ていた。



鳥取県立博物館のためのインスタレーション



ワークショップ「瀧澤さんとつくる光の空間」

Kiyoshi TAKIZAWA Installation work , Workshop

瀧澤 潔

鳥取県立博物館のための
インスタレーションとワークショップ



主な
出品
作品

16 模写をしながら鑑賞する

平成 26 年度美術常設展示「自然の情景 生きとし生けるもの」の会場でのワークショップ「モシヤモシヤ探検隊」コレクション展V-1

開催日時：2015 年 1 月 17 日（土）

会場：鳥取県立博物館 1 階常設展示室

対象：一般

美術部門常設展示は、当館コレクションを年間 6～7 回展示替えを行いながらテーマを設け、様々なジャンルの作品を展示するもの。「平成 26 年度コレクション展V（前期）」が、第 12 回ジュニア県展の会期であったことから、展示室で模写を行うワークショップを開催した。参加者には、作品の画像や作品の解説などが入ったスケッチブックを配布。持ち帰った後も、楽しめるような工夫をしている。会場には、画材も複数準備し、好きな画材を選択して模写出来るようにした。



模写を楽しむためのスケッチブック



スケッチブックに模写する参加者

主な出品作品
 沖一峨《紫陽花に小禽図》嘉永 5（1852）年
 土方 稻嶺《猿鹿図屏風》江戸時代後期
 島田 元旦《桜花図》江戸時代後期
 高橋 道八（二代）《雀香合》江戸時代後期

17 展覧会を企画することで鑑賞する

平成 27 年度夏休み子ども向け企画 高校生キュレータープロジェクト「わたし、どんなかお？」

会期：2015 年 7 月 18 日（土）～8 月 30 日（日）

会場：鳥取県立博物館 2 階近代美術展示室

対象：小学生～一般

本展では「高校生キュレーター・プロジェクト」と題し、高校生とともに当館コレクションによる展覧会を企画した。コンセプト決め、作品を選択し、展示し、発信する、このプロジェクトは高校生にとって、鳥取ゆかりの作家やその作品への理解を深めその魅力を再確認するとともに、展覧会が作られる「場」を体験し、自らの企画を発信する機会となった。公募によって決定した高校生キュレーターが、着目したのは作品に描かれた人物や動物の表情。「顔」を切り口に展示作品を選択し、展覧会名の決定、展示作業、チラシ作成などの広報、ギャラリートークなどを行った。ギャラリートークには、一般の来館者だけでなくクラスメイトや高校教員などの姿もあった。

主な出品作品
 尾崎悌之助《こま犬の怒り》1982 年
 前田寛治《西洋婦人像》1925 年頃
 三浦栲《双鹿図》江戸時代中期
 やなぎ みわ《My Grandmothers/MOEHA》2009 年



高校生キュレーターによるギャラリートーク

18 一画材の特徴を実感しながら鑑賞する一

平成 27 年度企画展「日本近代洋画への道—山岡コレクションを中心に」関連ワークショップ「油絵の具をつくろう！」

会期：2015 年 10 月 3 日（土）～ 11 月 8 日（日）

ワークショップ開催日時：2015 年 10 月 17 日（土）

会場：鳥取県立博物館 2 階第 1、第 2 特別展示室、会議室

本展では、日本近代洋画史上貴重な作品からなる山岡コレクションを中心に、日本近代洋画の歩みを紹介した。司馬江漢や円山応挙など日本の「洋画の萌芽」から高橋由一、国沢新九郎など「洋画の曙」黒田清輝、藤島武二、青木繁など華々しい「洋画の精華」に至る作品群を展示。ワークショップでは、まず展示室で作家や作品、画材や技法などについて解説を聞き、その後油絵の具を制作した。完成した油絵の具をオイルで溶き、専用の筆でキャンバスに描くことで油彩に対する理解がより深まった。



展示室で作家や作品、画材や技法などについて聞く。

主な
出品
作品

高橋由一《鮭図》1879-80 年
黒田清輝《裸体》1889 年
藤島武二《ヴェニス風景》1908-09 年
青木繁《二人の少女》1909 年



油絵の具をつくり、完成した絵の具でキャンバスに描いてみる。

19 一学芸員になったつもりで鑑賞する一

平成 27 年度美術常設展示「東部中学校教育研究会美術部会連携 風」コレクション展Ⅴ

館内普及事業

会期：2015 年 10 月 15 日（水）～ 11 月 29 日（日）

鑑賞授業開催日時：2015 年 11 月 19 日（木）

北中学校 第 3 学年 30 名 教員 35 名 計 65 名

会場：鳥取県立博物館 1 階美術常設展示室

対象：中学生～一般

本展は東部中学校教育研究会美術部会と当館教育普及との連携企画として開催した。鑑賞部会に所属する教員数名が、当館コレクションの中から「風」を表現した作品を選択し展示。会期中展示室で、中学生を対象として対話による鑑賞を行った。当日は県教育研究大会としての公開授業。「みなさんは学芸員として、この展示会のチラシをつくります。より風を感じる作品を選んでみてください。」という問いかけからはじまり、生徒は色や形を根拠にチラシのイメージとして一番ふさわしい作品を選んでその理由を発表し合った。授業後は、選択した作品を使ってチラシをつくり校内に掲示した。教員・生徒双方が鳥取の美術に関心を持ち、作家や作品の魅力を知る機会となった。



公開授業風景



生徒が決定した作品を用いたチラシ

主な
出品
作品

國領経郎《杜を映す溜水》1993 年
有田巧《風歌い》1991 年
浜田台兒《野分》1967 年
与謝蕪村《風竹図屏風》江戸時代中・後期

20 一 模写をしながら鑑賞する一

平成 27 年度美術常設展示 「モノクロームの手触り」の会場でのワークショップ「モシャモシャ探検隊 2016」
コレクション展VI

開催日時：2016 年 1 月 23 日（土）

会場：鳥取県立博物館 1 階美術常設展示室

対象：小学生～一般

美術部門常設展示では、当館コレクションを年間 6～7 回展示替えを行いながらテーマを設け、様々なジャンルの作品を展示している。平成 27 年度は「コレクション展VI」の展示期間に、第 13 回ジュニア県展の会期あたっていたことから、展示室で模写を行うワークショップを開催した。会場の床に、齋花逸郎の作品《Untitled continuous File-1986 II》と同じサイズ（1m8 作品に）に触発されるかたちで描いてみるというものだった。参加者は目の前に展示された作家の筆触に触発される形で、大きな画面に向かっていった。ワークショップ後は展示室入り口に展示した。



大きな和紙に鉛筆で描く参加者

主な出品作品
齋花逸郎《Untitled continuous File-1986 II》1986 年
前田昭博《白瓷面取壺》1991 年
岩宮武二《マヌカン》1955 年
塩谷定好《赤崎雪景》1932 年



21 一 作った誰かに手紙を書きながら鑑賞する一

平成 28 年度夏休み子ども向け企画 「いとをかしーかたちのふしぎと出会う場処」

会期：2016 年 7 月 16 日（土）～ 8 月 29 日（日）

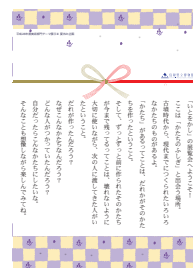
会場：鳥取県立博物館 2 階近代美術展示室

対象：小学生～一般

本展では、「いとをかしーかたちのふしぎと出会う場処」と題し当館コレクションのさまざまなジャンルから作品を選び展示した。「をかし」とは、「面白い、愛らしい、趣がある、美しい、興味深い」といった意味を持つ古語で、対象によってそのニュアンスは微妙に変化する。「いとをかし」をキーワードに工芸品等を展示し、鑑賞者が「オモシロイ、カワイイ、イイ感じ、キレイ、フシギ」などいろいろな印象を持ちながら、そこにある多様なかたちに出会い、その魅力を楽しんでいただく場とした。会場には、展示作品の中から「お気に入り」を見つけ、それを作った人に向けて手紙を書くコーナーを設置し、書かれた手紙を掲示した。



主な出品作品
《赤絵短冊波濤文茶碗》（あかえたんざくはとうもんちゃわん）不詳 磁器
《青磁象嵌菊花文壺》（せいじぞうがんきつかもんつぼ）不詳 磁器
《熨斗に枳形文様紺緋》（のしにますがたもんようこんがすり）不詳 木綿 経緯緋
《越後守包貞 脇差拵》（えちごのかみかねさだわきざしこしらえ）



22 一対話をしながら鑑賞する一

平成 28 年度 企画展 「日本におけるキュビスムーピカソインパクト」

会期：2016 年 10 月 1 日～11 月 13 日

会場：2 階第 1、第 2 特別展示室

対象：鳥取市立散岐小学校 第 5 学年 11 名、引率 2 名（10 月 4 日・約 2 時間）

若桜学園小学校 第 3 学年・第 4 学年 26 名、引率 4 名（10 月 6 日・約 1 時間）

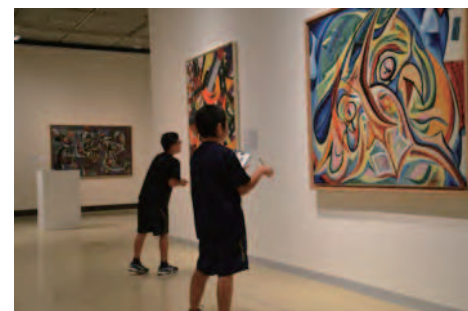
稲葉山小学校 第 3 学年 34 名、引率 2 名（10 月 27 日・20 分）

修立小学校 第 1 学年 4 6 名、引率 3 名（10 月 28 日・約 1 時間）

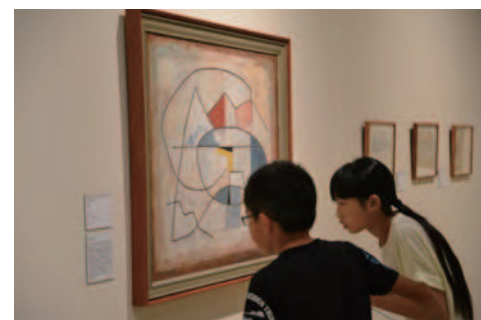
遷喬小学校 第 5 学年 2 1 名、引率 2 名（10 月 31 日・約 1 時間）

醇風小学校 第 6 学年 4 5 名、引率 3 名（11 月 2 日・約 1 時間）

本展では、ヨーロッパにキュビズムが登場した 1910 年代以降、同時代の日本の作家たちが新しい表現をいかに受容したか、そして第二次世界大戦という断絶の後、再び多くの作家がキュビズムの形式を取り入れて様々な表現、様々な主題に向かっていったかを紹介した。来館した子どもたちは、作品の前で、見つけたものや感じ取ったことを、色や形を根拠にして伝え合った。対話中に、展覧会担当学芸員より、展覧会の企画や展示についての話も聞いた。その後ワークシートを持って個々に鑑賞を行う。対話による鑑賞を経験することにより、絵画の中に何を見つけられるのかに興味を抱いた子どもたちは、「自分にとってどう見えるのか」を大切にしながらじっくりと作品と向き合っていた。



自分の目と気持ちと経験で感じ取る



みつけたものが感じたことをことばで伝える

主な
出品
作品

パブロ・ピカソ《静物》1944 年
 パブロ・ピカソ《帽子の男》1915 年
 岡本太郎《まひるの顔》1948 年
 吉仲太造《生きもの H》1955 年

23 ー同じ技法で制作体験することで鑑賞するー

平成 28 年度 テーマ展示Ⅳ まる○さんかく△しかく□展 関連 「コラージュで○△□などの絵をつくろう！」

館内普及事業

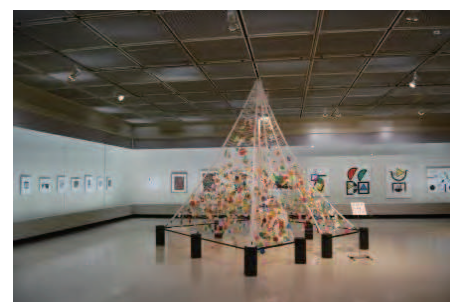
会期：2016 年 11 月 26 日（土）～平成 29 年 1 月 9 日（月・祝）

会場：鳥取県立博物館 2 階近代美術展示室

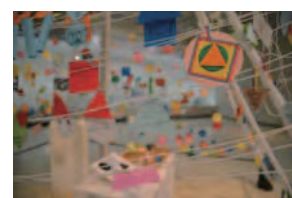
対象：小学生～一般

ワークショップ開催日時：平成 28 年 12 月 10 日（土）

本展では、日常生活の中でなじみ深い○(まる)△(さんかく)□(しかく)という形に注目し、美術作家たちが表現した○△□による世界を当館コレクションの中から紹介した。ワークショップでは、物部隆一氏を招いて、自作について聞いた後、発想の方法や技法、材料などを追体験する形で制作ワークショップを行った。



会場風景



ワークショップの様子

主な
出品
作品

物部隆一《コンポジション 00-18》2000 年
 福留章太《アントロポス》1980 年
 有田巧《公園前》2000 年
 米本一郎《田園風景（1）》1961 年

24 - デフォルメや省略に着目しながら鑑賞する -

平成 28 年度コレクション展 VI「岡村吉右衛門の世界」展関連 「作品鑑賞&スタンプ作りに挑戦！」

会期：2016 年 12 月 28 日（水）-2017 年 4 月 2 日（日）

会場：1 階美術常設展示室

対象：一般

ワークショップ開催日時：2017 年 2 月 4 日（土）

対象：4 年生～一般

本展では、当館コレクションの中から岡村吉右衛門の「蝦夷絵シリーズ」や「文字絵シリーズ」などの型染め版画作品、絞り染めや刺繍といった技法を駆使した布作品、岡村が蒐集した国内外の染織品などを紹介した。ワークショップでは、展覧会会場で、型染め版画作品における作家のデフォルメや省略の様子に着目して鑑賞した後、スタンプ作りを行った。



ギャラリートークの様子



制作されたスタンプ



ワークショップの様子

主な出品作品
 岡村吉右衛門《蝶》 1975 年
 岡村吉右衛門《卵に鳥》 1975 年
 岡村吉右衛門蒐集《白地藤燕模様紅型》 19～20 世紀

25 - 作品に触ることで鑑賞する -

平成 28 年度ワークショップ「触って楽しむ美術作品」

ワークショップ開催日時：2017 年 2 月 18 日（土）

会場：鳥取県立博物館 1 階美術常設展示室

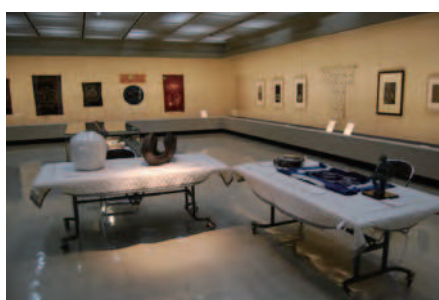
対象：小学生～一般

彫刻・工芸品・布などの当館所蔵の美術作品を一階美術常設展示室に持ち込み、触覚で鑑賞するワークショップを行った。参加者は、当日限りの触って鑑賞出来る機会に大きな期待を持って参加しており、長時間触覚での鑑賞を楽しんでいた。



ワークショップの様子

主な出品作品
 早川巍一郎《腰掛ける裸婦》 1952 年
 瀬戸浩《メビウス二回転 焼メ》 1979 年



瀬戸浩《メビウス二回転 焼メ》 1979 年